

生きたカキの確認

■導流堤付近の生きたカキ

9月の調査で、多くのカキが死滅している様子を観察したが（レポートNo.452参照）、今回の調査では導流堤についたカキの中に生きた個体を確認した。この日は仙台の最高気温が17.2℃を記録する暖かな日で、観察しているとカキの間からケフサイソガニの仲間が出てくる姿が見られた（Fig.1）。

■小さな貝殻に入るヤドカリの仲間

導流堤の水門付近七北田川側でヤドカリの仲間を採集した（Fig.2）。



(Fig.1 ケフサイソガニの仲間)

そのうちの1匹は、貝殻の中に入っても目が見えている状態で、使用している貝殻が体の大きさに対し小さめであるように見受けられた（Fig.3）。



(Fig.2 ヤドカリの仲間)



(Fig.3 貝殻に入っても目が見えているヤドカリの仲間)

■スナモグリの仲間

日和山北東の潟湖付近で、スナモグリの仲間の死骸を観察した（Fig.4）。干潟に深い巣穴を掘る生物で、エビに似ているが異なるグループ（スナモグリ科）である。

(Fig.4 スナモグリの仲間)

